

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成20年1月21日

## 【評価実施概要】

事業所番号	2773801341
法人名	医療法人 祐青会
事業所名	グループホーム くすのき苑
所在地	大阪府羽曳野市古市5丁目5番13号 (電話) 072-957-6501

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	2007年12月19日	評価確定日	2008年2月25日

## 【情報提供票より】(2007年12月19日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成)18年2月1日
ユニット数	2 ユニット
職員数	23 人
利用定員数計	18 人
常勤 7 人, 非常勤 16 人, 常勤換算 13.4 人	

## (2) 建物概要

建物構造	RC 造り
	2 階建ての 1 階 ~ 2 階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	42,000 円	その他の経費(月額)	24,000 円	
敷金	有( ) 円	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( ) 250,000 円	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	250 円	昼食	500 円
	夕食	550 円	おやつ	100 円
	または1日当たり		1400 円	

## (4) 利用者の概要(11月12日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	2 名	要介護2	4 名		
要介護3	6 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 83 歳	最低	72 歳	最高	93 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	尾崎クリニック 喜多クリニック
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

羽曳野市古市の町の住宅街から少し離れた古墳の側にあり、デイサービスセンターとケアプランセンターが併設しているホームです。職員はその人らしさを大切に、入居者の思いやその時の希望に耳を傾けながら、普通の暮らしを目指し支援しています。管理者は職員の自主性を大切にし、話し合いをしながら様々な取組みを行ったり、職員研修などの教育にも力を入れています。また、医療法人であり、医療と福祉との連携も考え、ホームに看護師が勤務していたり、必要時には入院できる病院との提携があり、医療面でも充実しているホームです。

## 【重点項目への取組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の外部評価を受けて、アセスメントの様式の検討や内容の充実に取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は各ユニット毎に常勤の職員が話し合って作られました。評価の結果は会議等で話し合わせ、改善策に取り組んでいく予定です。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	2ヶ月に1度、市の職員や民生委員、自治会の代表、家族等の参加があり、ホームの様子を伝えたり、参加者からの質問を受けたり、災害時の支援体制について話し合われています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	面会や電話で適時の報告を行い、3ヵ月毎のケアプランの更新時に話をしたり、月に一度の請求書を送るときにメモや機関紙の発行でホームの様子を伝えています。介護相談員を受け入れたり、食事会を予定しており、家族や本人からの意見を聞く機会を作り、サービスの改善につなげる体制があります。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	自治会に入り、回覧板をまわしたり、クリスマス会やバザーに参加しています。地域とは災害時に相互支援体制を定めた協定を結び、合同で訓練も予定しています。

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	医療法人としての理念を掲げていますが、ホーム独自の理念は作られていません。	○	職員全員の意見を集約し、地域の中のホームとして独自の理念を掲げる事が望まれます。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	法人の理念は職員に周知し、会議の中でも意識し話し合われています。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	自治会に入り、回覧板をまわしたり、クリスマス会やバザーに参加しています。	○	地域の行事に参加するばかりではなく、夏祭りなどのホームの行事に地域の住人がホームに来る機会を作り、お互いに行き来しながら地域との関係を作っていくことを期待します。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の外部評価を受けて、アセスメントの様式の検討や内容の充実に取り組んでいます。今回の自己評価は各ユニット毎に常勤の職員が話し合っって作られました。評価の結果は会議等で話し合わせ、改善策に取り組んでいく予定です。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度、市の職員や民生委員、自治会の代表、家族等の参加があり、ホームの様子を伝えたり、参加者からの質問を受けたり、災害時の支援体制について話し合われています。		

医療法人祐人会グループホームくすのき苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者との関わりは多く、月に一度の訪問もあり、相談しながらホームのサービスの向上に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会や電話で適時の報告を行っています。また、3か月毎のケアプランの更新時に十分に話をしたり、月に一度の請求書を送るときに様子を書いたメモを添えています。更に行事の様子などを載せた機関紙を送っています。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱を設置しています。また、介護相談員を受け入れたり、食事会を予定しており、家族や本人からの意見を聞く機会を作り、サービスの改善につなげる体制があります。	○	家族に対してのアンケートを行いたいと考えられています。日ごろ話にくいことや改めて思いを聞く機会となり、運営にも反映されることを期待します。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	一年間通して退職者おらず、法人内の異動のみでした。職員一人ひとりの適正を見極め、入居者にとってダメージの少ないように考慮しています。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部研修はテーマを決めて計画的に行っています。また、外部研修は適任と思われる職員に参加してもらい、研修内容は報告書を書き、会議の場で伝達研修も行っています。職員一人ずつ研修のファイルを作り、どのような研修に行ったか等の記録を残しています。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム部会へ参加しています。また、市の7つのグループホームは、交流があり情報を交換しながら1つ1つのケアや困っていることについて相談し、サービスの改善につなげています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	体験入居を受け入れているほか、家族の泊まることのできる部屋を準備し、徐々に馴染みながら入居を進めていく体制があります。混乱を招いたり、孤独感を持たないように職員が配慮しながら支援しています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	調理や洗濯など以前されていた事を一緒にやり、支援しています。協働することを大切に、昔のことを思い出してもらったり、役割ややりがいをもってもらえるような生活を支援しています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人との会話や家族から昔の話を聞き、どんな暮らしをしてきてどんな人であったかを重要な情報とし、本人の思いの把握に努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式を改良して作られたアセスメント様式に統一し、計画作成担当者が職員の意見を聞きながらアセスメントを行い計画を立案しています。介護計画案に添って、職員間で検討し仕上げています。	○	アセスメントの中からニーズや目標を立てられると焦点が絞られわかりやすく良いのではないのでしょうか。検討される事を期待します。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月ごとにアセスメントを行い、定期的に見直しを行っています。また、状態の変化に合わせての見直しも行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設するデイサービスとの交流があり、行事の参加やデイの訪問理容の利用などを行っています。また、個別での外出も支援しています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に家族と話し合い、かかりつけ医を決めています。週に1度の往診、週に2度の訪問看護を受け、夜間の連絡体制もでき安心して医療を受けることができます。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に終末期に向けた方針について、家族と話しています。終末期の受け入れはできませんが、本人の状態を家族や医師と相談しながら、ホームでできる対応をしています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	馴れ馴れしくならず、よそよそしくならず、言葉遣いに注意し支援しています。個人情報には鍵付きの書庫に適切に保管されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々の入居者のペースで生活できるよう、予定を決めずに意思を確認しながら、役割や楽しみごとの支援に務めています。		

医療法人祐人会グループホームくすのき苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の準備や後片付け、味付けなどできることを一緒に行い、一緒に食卓を囲み食事が楽しみとなるよう支援しています。時々外食に出かけたりもしています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日を決めず、時間も入居者に決めてもらい、希望にあわせゆっくりと入浴できるよう支援を行っています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	食事や洗濯などの家事に役割を持っている人や、編み物や洋裁、花壇の花の世話などの楽しみごとが日常でできるよう支援しています。また、希望で映画館に映画館に行き楽しんでもらうなどの個別外出も行いました。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	希望に合わせて散歩やドライブ、買い物などの支援を行っています。徐々に散歩の希望が少なく外出の機会が減ってきています。	○	車の通りなど気軽に外出しにくい環境にありますが、日常の外出も楽しみごとの一つになるような取り組みに期待します。
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホームの前が車の通の多い車道となっていることもあり、鍵をかけていることもありますが、見守りのできる時などは鍵をかけていません。入居者に閉塞感のないよう、外に出たい時にできるだけ出ることができるよう支援しています。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回避難訓練を行っています。地域とは災害時に相互支援体制を定めた協定を結び、合同で訓練も予定しています。		

医療法人祐人会グループホームくすのき苑

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日1600kcalと決め、栄養士の立てた栄養バランスの良い献立をもとに作られています。毎回の食事摂取量、水分摂取量をチェックし把握しています。また、嚥下能力に合わせ刻み食を提供しています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広い共有空間には、多くの物はありませんが、季節感を感じることでできるような飾りつけや花を置いています。個々の居場所となるようにソファが配置されていたり、加湿器などを用いて環境に配慮しています。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れたものを持ってきてもらうように説明しています。個々によって差はありますが足踏みミシンや仏壇、ソファなどを持ち込み、居心地の良い居室となるよう工夫しています。		